



広島県立文書館収蔵文書展

遺された

日記たちが

語ること



展示開催期間

平成30年3月27日〔火〕～6月9日〔土〕

※土曜の午後、日曜、祝日は休館。入場無料。

展示関連講演会

平成30年6月2日〔土〕10:00～12:00

※事前予約が必要です。詳細は裏面をご確認ください。

広島県立文書館展示室

広島市中区千田町3丁目7-47 広島県情報プラザ2F

遺された日記たちが語ること

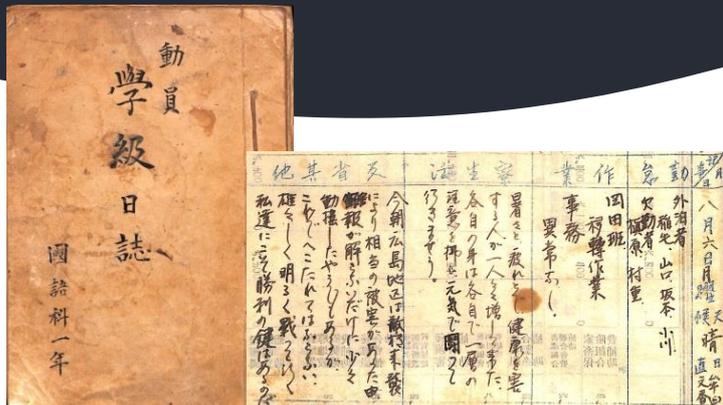
日記（又はブログやSNS）をつけていますか。今はつけていなくても、学生時代に、夏休みの宿題で日記をつけた経験は誰でもあるはず。過去の日記を読み返すと、当時の記憶が蘇り、タイムスリップしたような気分になります。

日記は、歴史学の分野では、後世の編纂物などとは異なり、書簡や手記などとともに、同時代の人が書いたことが明らかな、代表的な一次史料です。日記からは、その時代に生きた人々の当時の息遣いが手に取るように伝わってきます。

日記は、個人が日々の出来事や心情を主観的に書く「日記」と、業務日誌や学校日誌、航海日誌、作業日誌など、組織の記録として、人に見られることを前提として客観的に書く「日誌」とに大きく分類できます。

当館ではこれまで、江戸時代から現代に至る多種多様な日記や日誌の中から、広島心学者の日記「宮本愚翁日記抜粹」と、広島藩家老東城浅野家の家臣、村上彦右衛門の日記「村上家乗」続編、計八冊を資料集として刊行してきました。

本展では、様々な日記を通して、日本人はなぜ日記を書き、遺したのか、日記から何が読み取れるのか紹介します。広島のこれまで知られていなかった歴史の一コマが、そこに綴られているかもしれません。



広島女子専門学校一年生の動員学級日誌 昭和20年(1945)

後藤陽一資料(200901-110-2)

銃後を守る中等学校以上の生徒は、女学生も含めて軍需産業や食糧増産に学徒動員された。広島女子専門学校(現県立広島大学)の一年生91名は、昭和20年1月8日から倉敷市外の三菱重工業(株)水島航空機製作所で、広島女専報国隊として攻撃機の部品組立作業に従事した。これは国語科一年の日直がつけた学級日誌。

6月22日朝、工場が大爆撃を受け、作業はできなくなった。山中の工場では作業は続けられたが、部品がなく仕事は減り、合間に授業を受けた。

8月6日、広島に敵機来襲があり、相当の被害が出たという報が伝わった。「これでへこたれてはならない、雄々しく明るく戦って行く私達にこそ勝利の鍵はあるのだ」と綴られて日誌は終わる。



道中安楽記 巻~四 天保9年(1838)

千葉家文書(198812-371)

安芸郡海田市の商人、神保屋(千葉)八郎太とその分家の恭平は、天保9年3月23日に広島から乗船し、四国の道後を皮切りに、奥州松島まで足を伸ばす遠出の旅に出た。その日程は161日間にも及ぶ。大坂以東は、殆どが自らの足が頼りの旅であった。これはその道中日記である。裕福な町人である2人は、天保飢饉もまだ醒めやらぬ騒然とした情勢の中を、名所・旧跡の見物や寺社参詣にとどまらず、温泉では旅の疲れをいやし、各地で名物料理を食し、実に気儘な旅の生活を送っている。

文書館講演会 「遺された日記たちが語ること (仮題)」

- 開催日時：平成30年6月2日(土) 10:00~12:00
- 講師：西村 晃(広島県立文書館総括研究員)
- 開催場所：広島県情報プラザ第1研修室(2階)
- 申込方法：電話・はがき・FAX・Eメールで **5月26日(土)まで**に、県立文書館へお申し込みください。

広島県立文書館

開館時間 9:00~17:00(土曜日は12:00まで) ※日曜日・祝日・休日は休館

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47 / TEL 082-245-8444

E-mail monjokan@pref.hiroshima.lg.jp / URL <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/monjokan/>

